

科目名	文化人類学	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			経済学部	□必修 ■選択
			総合政策学部	□必修 ■選択
英文表記	Cultural Anthropology かまだ ゆきお	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年	
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
ふりがな	鎌田 幸男	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	文化人類学	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	文化人類学とはどのような学問か、何を明らかにする学問かを説明できるようになる。			
到達目標	この授業を履修することでフィールドワークの仕方や考え方、また様々な課題への対応方法を理解する。 ① フィールドワークとはどのようなことか、実施の方法などを学び理解する。 ② 具体的に課題への取り組み方がわかる。調査の方法を知る。 ③文化人類学とはどのような学問か説明できるようになる。			
授業概要	文化人類学とは、一言で説明すると人類学の学問である。世界の諸民族がもつ文化、社会、言語それに経済、宗教など生活誌全般について、つまり広範にわたる学問領域の比較研究ということになる。この学問研究に欠かせないものにフィールドワーク（現地調査）がある。マリノフスキーのそれは世界的に知られている。授業ではそれに着目する。また本講義ではアメリカ、ドイツ・オーストリアなどの文化人類学を通じて日本の文化人類学の歴史的な歩みを取り上げる。そして具体的な調査方法を考える。男鹿半島に伝わるナマハゲ行事や秋田の竿灯祭を事例にする。またダーウィンの進化論や超自然の世界にも触れる。			
授業計画				
第1回	オリエンテーション、講義の概要についての説明をする。人類学について簡単に触れる。			
第2回	文化人類学の世界とはどのような学問なのか。どのように研究するのか			
第3回	文化人類学と民族学と民俗学の関連について考える			
第4回	アメリカ、オーストリア・ドイツの学問を通じて、日本の文化人類学の歩み—研究の歴史を考える			
第5回	マリノフスキーの調査から、小さな離島の経済活動について (1)			
第6回	マリノフスキーの調査から、個人や集団の経済活動から政治的、社会的関係に進展した事を知る (2)			
第7回	世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産について理解する			
第8回	男鹿半島に伝わる民俗行事・ナマハゲ文化について その概要と調査方法について (1)			
第9回	秋田市の竿燈祭の概要と調査方法について (2) (20分程度の小テスト実施)			
第10回	文化の伝播について、ダーウィンの進化論 (1)			
第11回	文化の伝播について 伝播論と社会伝播論について (2)			
第12回	超自然の世界—アニミズム、シャーマニズムについて (1)			
第13回	超自然の世界—日本のシャーマニズムについて (2)			
第14回	文化人類学の新しい領域にどのようなものが考えられるか。			
第15回	まとめと振り返りと課題。			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	・テレビ番組に例えば「ダーウィンが来た」「世界の諸民族の食べ物とか祭りとか生活習慣など」を取り上げることがある。関心をもって見てほしい。 ・「文化人類学入門書」(中公新書)。これは読み易いので興味・関心が湧くと思う。			
履修条件 受講のルール	ノートをとる。講義中眠らない。			
テキスト	半期科目なので使用しない。			

参考文献・資料	『文化人類学入門』中公新書、祖父江孝男、2004年。『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社、米山俊直・谷泰 1997。『文化人類学への招待』山口昌男 岩波新書
成績評価の方法	① 定期試験 (60%)、②小テスト実施 (20%)、③レポート (10%)、④出席カードの裏に授業の簡単な感想を書く (10%)、①②③④の総合評価とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納付金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月、火、金曜日 (9:00-10:30) *これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。
成績評価基準	秀 (100~90) 優 (89~80) 良 (79~70) 可 (69~60) 不可 (59~0)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	① 新聞やテレビ番組などで世界の民族の記録などを見る。 ② 秋田の民俗行事に関心を持つ。 ③ スクラップブックを作成すると自分の資料になる。 ④ 学習したことをノートにまとめる。必ず知識として残る。